

川崎重工グループCSR報告書2010を読んで

慶應義塾大学大学院経営管理研究科
教授 経営学博士

磯辺 剛彦



川崎重工グループでは、CSRを独立した特別なものではなく、CSRと企業本来の事業活動を高い次元で両立させようとしていることが報告書から読み取ることができます。たとえば、「川崎重工グループが創る未来の社会」では、同社の企業戦略と人類の幸福や繁栄が密接な関係にあることが伺えます。この報告書は、経営トップがCSRを事業活動の軸にしていること、各カンパニーがCSRの意味や意義を理解していることなど高く評価できます。その一方で今後の検討課題も見受けられます。以下、この報告書について私見を申し上げます。

①CSRの課題項目

報告書ではCSRの課題項目として「事業」「マネジメント」「従業員」「地球環境」「社会貢献」の5テーマが設定されています。この分類は妥当で理解しやすいものになっており、今後取り組むべき項目が整理されています。また細部にわたって深く議論されていることも高く評価できます。これらを一歩進めて、優先順位や取り組みの時間的な長さを決めることが求められます。さらに同じテーマでも自己評価が高い項目と低い項目が混在していますが、これは事前に想定していなかった別のテーマが潜んでいることを示唆しています。たとえば、多くのテーマで「活動方針を明文化しているが実行に結びついていない」という傾向が見られます。各項目を違った角度から検討することも必要だと思います。

②コーポレートとしてのCSR

各カンパニーのCSR報告では構成が系統化され、取り組みの内容が明瞭に説明されています。単に事業活動や製品・技術の紹介だけでなく、地球環境問題との関わりについて真面目に議論されていることにも好感が持てます。しかし各カンパニーの活動指針となるべきコーポレートのミッションについて、より具体的な提案が必要だと思います。この報告書の表紙デザインを見ると、同社の提供価値が「人やものをつなげること」と定義できます。そしてこの価値領域において「CO₂フリーの水素が次世代のエネルギーとなる社会」を提案しています。そうだとすれば、なぜ水素が主役になるのか、水素がエネルギーの主役となる社会とはどのような社会なのか、私たちの生活はどのように変わるのか、といった質問に答えなくてはなりません。

③報告書の読者

同社が手がける車両、航空宇宙、船舶海洋、モーターサイクルといった事業は、子供たちにとって「夢」や「あこがれ」です。そして「未来」がCSRのキーワードとして定義されています。CSRのもっとも重要なステークホルダーである子供たちに対して、夢やあこがれを追い求めることが、世界中の人々の未来につながることを伝えなければなりません。子供たちが地球環境に興味をもち、次の世代に伝えてゆく仕組みを作るためには「子供たちへのメッセージ」が必要です。このような取り組みも川崎重工グループにとって重要な社会的使命だと考えます。

第三者意見を受けて

川崎重工グループ内にCSRという言葉が冠した組織ができたのが2006年10月でした。それから4年の月日が流れ、その間CSRとはどのようなことなのか、どのように理解し、どのように行動すればよいのかを本社だけでなく事業部門の経営者と一緒に考えてきました。ようやくCSRの課題項目を設定し、今後取り組む項目を整理することができました。即ち、今年度が川崎重工グループの本格的なCSR元年と位置付けています。これまで培ってきた「社会からの信頼」を継続発展させることが基本となります。

第三者評価をいただいた磯辺先生のご意見を受け止め、またステークホルダーをはじめとする読者の皆様



のご意見を聞きながら、川崎重工グループらしいCSRとはどのような姿なのかを追求していきたいと思っています。

CSR推進本部長
執行役員 山下清司

アンケート葉書は、非木材のヨシ紙を使用しています。
ヨシ紙は、非木材グリーン協会の認定製品です。

川崎重工業株式会社

設立年月日 | 1896年10月15日

本社所在地 | 東京本社
〒105-6116 東京都港区浜松町2丁目4番1号
(世界貿易センタービル)
神戸本社
〒650-8680 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号
(神戸クリスタルタワー)

代表者 | 取締役社長 長谷川 聡

資本金 | 104,328百万円(2010年3月期)

発行済株式総数 | 1,669,629,122株(2010年3月期)

売上高 | <連結> 1,173,473百万円(2010年3月期)
<単体> 644,133百万円(2010年3月期)

従業員数 | <連結> 32,297人(2010年3月期)
<単体> 10,537人(2010年3月期)